

## 第36回全国ホテル研究大会報告

### ◇研究大会の概要

第36回大会が4月18日～20日にかけて、全国ホテル研究会主催、久米島町・久米島町教育委員会共催、環境庁、沖縄県・沖縄県教育委員会の後援により沖縄県久米島町で開催され、会員や地元のメンバーなど250名余が参加しました。

18日は13時45分よりホテル日航久米アイランドホテルで受付が始まり、日程説明の後、2班に分かれて自然文化センター、久米島ホテル館、五枝の松、具志川城跡、比屋定バンタを廻り、ホテルまつりが行われている具志川に移動しました。夕食後、具志川城跡と五枝の松のクメジマボタル生息地でクメジマボタルの乱舞を堪能しました。五枝の松ではわずか1匹ですが、クロイワボタルのヒメボタルに似た光も見ることができました。ちなみに、那覇発最終便が機体のトラブルのためにあわや欠航となる所だったそうですが、遅れながらも無事出発することができ、最終便で久米島入りした参加者とは五枝の松で出会うことになりました。

翌19日は具志川農村環境改善センターに会場を移し、9時30分より開会式が始まりました。開会式は久米島町保健衛生課の山城英明課長の司会で進行し、久米島高校1年生と中里中学校3年生の生徒さんによる「ほたるこい」と「じんじん」という本土と沖縄のほたるのわらべ唄の合唱で幕を開けました。続いて圓谷事務局の開会宣言、古田会長の挨拶、高里久三久米島町長の祝辞があり、韓国から参加された韓国ホテル研究会の皆さんが紹介され、開会式は終わりました。

午前中は久米島での大会開催のきっかけになったクメジマボタルについての記念講演を木村正明さん、大場信義さん、鈴木浩文さんが行い、続いて沖縄県農林水産部南



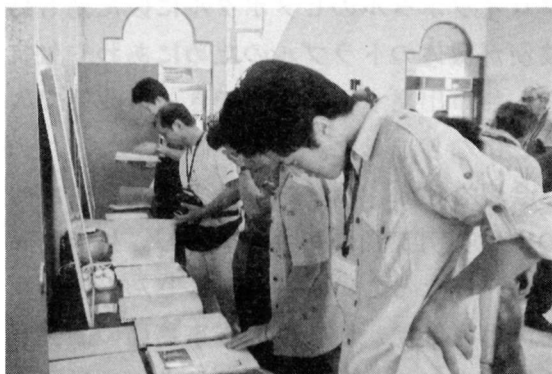
会場入口



久米島高校・中里中学校生徒さんの合唱風景

部農林土木事務所の島袋進さんが基調発表を行いました。午前中最後は後藤が作成したスライドショーで、普段目にする事のない琉球列島のホテル達を紹介しました。午後は招待講演として韓国ホテル研究会の朴海哲さんの「韓国にホテルは何種類いるか」で始まり、続いて地元久米島の小学生本間丸鈴さん、浦添小学校、国頭中学校の児童・生徒さんの発表、さらに宇江城洋一さん、琉球大学風樹館の佐々木健志さん、久米島ホテル館の佐藤文保さんと地元の発表が続きました。その後、4人の会員が発表されましたが、今回は地元の発表が大変多い研究発表となりました。

研究発表終了後、休憩をはさんで盛本實氏を議長に総会が行われました（総会議事録抄参照）。総会后、圓谷事務局長より閉会宣言が行われ、大会が終了しました。研究発表会中は会場となった具志川農村環境センターのホールの一角に、本間丸鈴さんがまとめた昆虫の研究のファイルやパネルが展示され、会員の皆さんも熱心に見入っていました。総会終了後、場所をホテル日航久米アイランドホテルに移動して懇親会が行われ各々親睦を深めました。



本間さんの研究資料を見る参加者



次期開催地への花束贈呈

**会 場：**沖縄県久米島町 具志川農村環境改善センター

**大会日程：**

- 4月18日（金）
  - 13：45～14：10 受付・日程説明（日航ホテル久米アイランド）
  - 14：30～17：30 見学会（久米島ホテル館，自然文化センター，具志川城跡，比屋定バンタ，五枝の松）
  - 19：30～21：00 ホテル観賞（具志川城跡，五枝の松ほか）
- 4月19日（土）
  - 9：30～10：00 開会式
  - 10：00～11：00 講演「新種クメジマボタル発見の日は」木村正明

	「久米島とクメジマボタル」大場信義
	「遺伝子から見たクメジマボタルの位置」鈴木浩文
11：00～11：30	基調発表「カンジン地下ダムと環境整備」 島袋 進（沖縄県農林水産部南部農林土木事務所）
11：30～12：00	スライドショー「琉球列島のホタル」
13：00～13：15	特別発表「韓国にホタルは何種類いるか」朴海哲
13：15～16：05	研究発表
16：20～17：00	第36回総会
18：30～21：00	懇親会（日航ホテル久米アイランド）

### 研究発表：

クメジマボタルの研究〈久米島の宝物〉	……………	本間丸鈴
「浦添城址をホタルの里に」の活動に参加して	……………	浦添小学校
オキナワスジボタルの発光数と気象との関係について	……………	国頭中学校
クメジマボタルと島の将来	……………	宇江城洋一
クメジマボタルの生息地とキクザトサワヘビが発見された場所との 関連性について	……………	佐藤文保
沖縄におけるホタルの捕食者について	……………	佐々木健志
長野県内のヒメボタル大型タイプ・小型タイプの分布状況	……………	三石暉弥
遺伝子から見たヒメボタルの変異と分化	……………	日和佳政
ヘイケボタルの二化性について	……………	山岡 誠
三浦半島における東京湾ベルト地帯の鉄道沿線で広がる「ホタルの里」づくり ……………	……………	大場信義

## ◇大会開催地より

### 第36回ホテル研究大会を終えて

クメジマボタルの会 会長 宇江城洋一

沖縄の島々には、イリオモテヤマネコやヤンバルクイナをはじめ貴重な固有種が数多く生息しています。久米島にも数多くの固有種（動物）が生息し、限られた小さな土地ですが生物の種の多様性が高く、その数や分布において琉球列島の中でも特異な島とされています。

1993年、クメジマボタルは日本で3番目の水生ボタルとして久米島で発見されました。新種であるクメジマボタルは久米島にしか生息しておらず、日本各地の河川環境保全等の取組でシンボリック的位置にあるゲンジボタルと酷似しています。このことは、他の沖縄に生息する他の固有種とは違い特別な意味をもつ貴重な「宝物」が発見されたと思えました。ゲンジボタルを通しての日本各地の環境保全の在り方、取り組み等々多くのことが学べるとや、人的交流においても魅力的で島の発展において貴重な存在であると考えました。

そのようななかで全国大会の開催を久米島で行うことは私たちのかつての願いであり今回、36回大会を無事終了できたことは本当に有意義な行事だったと思います。

これも会員の皆様の「へき地久米島」での開催への暖かいご理解、ご指導や励ましがあったからこそ実現できたことであり、心から感謝いたします。ありがとうございました。

大会でも報告しましたが現在も、河口付近のエメラルドグリーン珊瑚の海が、大雨のたび、クメジマボタルの生息する河川から流れ出た赤土で、赤く染まるという心の痛むことが今でも繰り返されています。特に多く島民の生活を支えているサトウキビ農業との関連や、下水施設の抜本的対応策がない現状で、なかなか改善されないことも事実です。

東シナ海にポツンと位置する久米島の限定された自然条件は、他にも類のない有利な条件で環境保全や再生できる環境にあるものと考えています。一昔前の珊瑚の海辺が再生することを目標に取り組み続けたいと思います。このことを、これからの大会で随時報告し、また皆様の指導をいただければ幸いです。

## 第36回全国有る研究大会（沖縄久米島大会）お礼

第36回全国ホテル研究大会実行委員長  
久米島町役場観光課課長 盛本 實

会員の皆様には、韓国や北は北海道からご来島いただきありがとうございました。沖縄のへき地、離島久米島というへんぴな土地での開催で、私たちスタッフは3年前から準備委員会を結成し取り組んでまいりました。皆様におかれましては多々ご迷惑をおかけしたこともあったかと思いますが、お陰様で無事大会を閉じることができたことに対し、深く感謝するとともに厚く御礼申し上げます。

今回の大会は、沖縄県内のTV、新聞のマスコミ等からも高い関心が寄せられ、大会当日はもちろんその後も数回報道されました。沖縄各地に多くのホテルが生息するにもかかわらずホテルが十分理解されていない状況で、大変意義深い大会だったと改めてスタッフ一同ふりかえています。

また、全国の会員の皆様に久米島やクメジマボタルを紹介できたことは何よりもうれしく思います。本当に感謝いたします。

2000年の守山大会で、久米島大会の皆様の暖かいご理解のもと、内定をいただき、開催までの間、会長の古田忠久氏はじめ事務局の皆様そして前会長の大場信義氏には大変お世話になりました、改めてお礼申し上げます。

島においては、クメジマボタルから多くのことを発信し、久米島のもつ自然の豊かさを再生・保全し久米島の発展に生かしてくことが皆様に対するお礼だと考えています。これからもご指導ご助言よろしくお願いたします。

全国ホテル研究大会の発展と会員の皆様のご健勝を祈念してお礼のことばと致します。

## 第36回全国ホテル研究大会久米島大会を終えて

久米島ホテル館 佐藤文保

第36回全国ホテル研究大会久米島大会に北は北海道から南は九州まで、遠路多数の会員の皆様および始めて大会に参加された地元沖縄島、久米島の皆様に心より暑くお礼申し上げます。沖縄県ではじめての意義ある大会に盛り上げていただき本当にありがとうございました。

まさに、初めてづくし、研究大会始まって以来4年の準備期間を戴いたにもかかわらず、大会期間中は何かとご迷惑おかけしましたが、なにとぞご容赦のほどお願い申し上げます。大会誘致を決定した具志川村にとって、その当時はまさか島の2つの村

が、久米島町として合併（2002年4月）した後の記念すべき大会になるとは予想もしていませんでした。そのため、大会の準備にあたっては地元旧具志川村民だけでなく旧仲里村の役場職員や旧仲里村民の方々にも大変な協力をしていただきました。本当にありがとうございました。また、大会誘致に向けて島を挙げての取り組みがおこなわれた結果、2002年12月7日にはホテル大会のプレシンポジウム「島の観光・産業そして未来 ホテルからの提言」が、クメジマボタルの発見者や研究者、保護団体から5人のパネリストを招いておこなわれました。そして、久米島ホテル館をいつも応援していただいている地元商店街の皆さんによる、はじめてのホテル祭りを研究大会にあわせて開催していただきました。

群馬県月夜野町における第32回大会で、4年後に久米島で大会を開く異例の決定をしていただいた1999年に、クメジマボタルをイメージした山小屋風の造りの久米島ホテル館が竣工しました。そして、2000年5月21日、「久米島ホテルの里・久米島ホテル館」が開館しました。たくさんのホテルが飛びかう島を夢見るクメジマボタルの会（宇江城洋一会長）の長年にわたる希望の礎ともいえる施設のオープニングです。

5月20日の開館セレモニーでは、NHKの連続テレビ小説「ちゅらさん2」で流れる『琉球ムーン』の作曲者として有名になったミヤギマモルさんのミニコンサートが開かれました。「球美伝説～久米島のイメージソング～」の中の『ほたる～クメジマボタル～』が心をこめて歌われました。

そして、2003年4月18日に念願の第36回全国ホテル研究会久米島大会が、地元久米島町の子供たちのわらべ歌「じんじん」のコーラスの歌声の中開かれました。大会は、クメジマボタルの生息地をめぐり、その保護・保全のあり方についての説明を聞き、夜は幻のホテルの舞を見学しました。4月19日は研究大会の記念講演と研究発表がおこなわれました。午前中の記念講演は、クメジマボタルについてより深く理解してもらうためのプログラムを組みました。クメジマボタルを発見し、命名した沖縄在住の昆虫研究者木村正明氏や種の保存法に基づくクメジマボタルの生態研究で多大な業績を残された大場義信氏、DNAの研究でクメジマボタルはじめ多くのホテルの研究されている鈴木浩文氏の講演がおこなわれました。そして、沖縄県農林水産部南部農林土木事務所の島袋進氏によるクメジマボタルが生息するカンジダム湖内の棚田と水路の建設の目的と意義についての講演もおこなわれました。また、後藤好正氏による琉球列島のホテルスライドショーも好評でした。午後は、地元沖縄の子供たちの研究発表がおこなわれました。大人に混じっての堂々としたまた、多彩でユニークな研究に会場の参加者も驚きの声が上がりました。

久米島は島の歴史が古く、クメジマボタルだけでなくさまざまな貴重な生きものが

生息しています。久米島ホタル館は、ホタル保護のために環境の保存と復元，そこに生きる在来のさまざまな生きものとの共存をテーマに展示を取り組んできました。建設および展示にあたっては、大場義信氏をはじめ、ホタル研究者、ホタル研究会の多くの方々、そして地元クメジマボタルの会や自然を愛する多くの方々の協力がありました。ホタル大会成功を契機に新たな前進に向かって少しずつ着実に取り組んでいきたいと決意を新たにしています。そして何よりも、たくさんの参加を賜り、成功裡に終了できましたことは全国ホタル研究会の皆様方のご協力とご支援を賜りましたおかげであります。この場を借りて厚くお礼申し上げます。今後ともよろしくお願い致します。

## 久米島の全国ホタル研究大会に参加して

浦添市立浦添小学校 5年  
山城 裕哉

「久米島でのホタル大会に参加できます。」と、校長先生から話があり、ぼくたちは、発表のしかたについて話し合うことになりました。

いよいよホタル大会の当日、ぼくたちはとてもきんちょうしていましたが、佐々木先生の「練習どおりやれば大丈夫だよ」という言葉にサポートされて、無事に発表を終えることができました。ホタル大会では、ぼくと同じ5年生の女の子や全国各地から集まってきた人たちの研究発表を聞き、何年も何十年も何か一つのことを継続して研究することってすごいなと思いました。大会に集まっている人たちがうれしそうにホタルの話をしていたのが印象的でした。

大会を終えて、その夜はみんなでクメジマボタルのホタルウォッチングに行きました。クメジマボタルは、ぼくが観察した沖縄本島の陸生ボタルに比べて二倍くらいの大きさがあり、真っ暗な夜にピカピカ光ってイルミネーションのようでした。大会のよく日にも、楽しいことがありました。ホタル館やウミガメ館に行ったり、川遊びをしたり、だるま山の自然観察をしたりしました。とくにだるま山では、あわの中にいるふしぎな虫やトタテグモなどを観察し、いろいろなことがわかりました。羽に番号の書かれたチョウを見つけたら連絡するよという話も聞きました。

今回、ホタルのことだけでなく自然や環境のことについても、はじめてわかったこと、おどろきや感動がいろいろありました。いい思い出ができてよかったです。

浦添市立浦添小学校 5年  
新垣 仁那

私は、おばあちゃん達から昔、ホタルとどのようにして遊んだかななどを調べました。それから佐々木先生といっしょに発表の練習をしたりしました。それから、久米島に行って発表をしました。私たちの前に、本間丸鈴さんの発表がありました。大きな声で発表していてすごいと思いました。私たちの発表では、私は、昔のホタルの話をしました。最後には大きなはく手がありました。とてもうれしかったです。

その夜にクメジマボタルを見に行きました。大きくて光が強かったです。手を広げると、手にとまったのでびっくりしました。つかまえようと思ったらすぐつかまえられないぐらいいっぱいいました。ピカピカしてきれいでした。

こんどからは、ホタルのことを調べるだけでなく、ホタルの住みよい町にしていきたいです。

## 全国ホタル研究会久米島大会に参加して

国頭村立国頭中学校 3年

平良 新和・山城 栄介・宮城 拓磨

僕たちは、去年から「国頭村のホタルについて」研究を行っています。はじめの頃は、理科の自由研究のテーマを何にしたらいいのか迷っていましたが、「以前はたくさん見られたホタルが最近は見られない」という話を聞いて自分たちで調べてみようと思いました。近くの比地という場所で調査を行い、ホタルの発光数と気象状況についてまとめ、「ホタルの光」というテーマで自由研究を提出しました。理科の座間味先生が、僕たちの研究を認めてくれ、琉球大学風樹館の佐々木先生を紹介してもらいました。佐々木先生は、僕たちにホタルの調査方法やホタルの種類についていろいろ教えてくださり、調査にも連れってもらいました。ホタルの事がいろいろ分かり、調査が面白いと思えた頃、全国ホタル研究会の久米島大会に参加する話があり、自分達の研究を発表する機会があるということを知り驚きました。このような大きな大会で僕たちのような中学生が専門に研究なさっている方々の前で発表できることは、これからも多分ないと思うので本当に良い機会を与えられたと思っています。久米島では、いろいろな方に出会え、また、久米島ホタルの観察もできてとても良い思い出になりました。国頭に帰ってからも ホタルの会員の永江さんが学校まで訪ねてこられ、ホタルの調査方法などいろいろと教えてもらいました。一緒に来ていた气象台の宮城さんにも気象について話を聞く事ができました。



僕たちは、去年に引き続き今年も気象とホタルの発光数について研究を行い、全国ホタル大会で学んだいろいろな事を研究にいかしながら、レポートをまとめました。そのおかげで、国頭地区児童生徒科学賞作品展で金賞をいただき、沖縄県児童生徒科学賞作品展では優良賞を受賞することができました。次は、沖縄電力主催の沖縄県青少年科学作品展に出品することができるので、それに向けて調査を進めているところです。

久米島大会での専門の方の話や体験が僕たちの研究に大変ためになりました。ホタルの会の皆様 良い機会を与えてくださり本当に感謝しています。ありがとうございました。



発表した浦添小学校の子どもたち



国頭中学校の生徒さんと先生

## 新刊書の紹介

□月刊 海洋 2003年9月号 (35巻9号)

海洋出版, 2003年9月発行, 2,000+税

※2003年1月23~24日に東京大学海洋研究所で「海洋発光生物の現状と展望」という研究集会が開催された。1日目は発光生物の行動観察, 2日目は発光のメカニズムなどが話題提供されたが, 海洋発光生物の研究集会でありながら発光生物の生態研究の中でも研究が進んでいる分類群としてホタルも取り上げられ, 本会の大場信義氏と鈴木浩文氏が話題提供されている。本号はこの研究集会のテーマを総特集とし, ホタル2編を含む13編の報文が掲載されている。普段目にする事の少ないホタル以外の発光生物や, 発光システムについての研究の現状を知ることができる。